

立川断層帯 地震確率高まる

政府の地震調査委員会は九日、東日本大震災が全国の活断層に及ぼした影響を評価した結果、立川断層帯(東京都、埼玉県)と双葉断層(福島県、宮城県)、牛伏寺断層(長野

政府調査委評価

マグニチュード(M)9.0の東日本大震災では、日本列島の地盤が東方向に動いたため広範囲で地下の力のかかり方が変わった。その影響を計算し、双葉断層など三断層に地震を起しやすくなる力がかかったと結論付けた。

同委員会は国内の百六の主要断層の地震発生確率をまとめた長期評価を公表している。三十年以内の確率は、立川断層帯(推定M7.4)が「0.5〜2%」、双葉断層(同6.8〜7.5)が「ほぼ0%」、牛伏寺断層(同8程度)が「14%」としていた。この確率が上がったとみられる。

政府の中央防災会議では、立川断層帯で地

東日本大震災影響 原発30基 双葉断層も

県)で地震の発生確率が高まった可能性があると発表した。双葉断層は東京電力福島第一原発から約三十キロ距離で、立川断層帯は首都圏直下にある。地震が起これば社会的に大きな影響を及ぼす恐れがあるため同委員会は「確率がどれだけ上昇したかは見積もれないが注意してほしい」と呼び掛けた。

震が起きた場合、東生に備えて防災対策を京を中心に最大で約四割とってほしい」とし十八万棟が全壊し、死した。福島第一原発では耐上ると想定している。震設計に双葉断層の地同委員会は「立川断層震を考慮しているが、はもともと主要断層の大震災後の事故で建屋中でも発生確率が『やが大きく壊れている』や高いグループ。ことから影響も懸念されれまでと同様に地震発る。



立川断層帯の震度想定
※中央防災会議のデータをもとに作成

- 7
- 6強
- 6弱
- 5強
- 5弱
- 4
- 3以下